

司会（松原恵美 氏）

続きまして、本日ご来賓として出席いただいております方々からご挨拶をちょうだいしたいと思います。まずは、広島県議会議員でいらっしゃいます森川家忠様よりご挨拶をちょうだいしたいと存じます。お願いいたします。

◆来賓挨拶 13:05～13:15

来賓（広島県議会 議員 森川家忠 様）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました森川でございます。ひと言ご挨拶を申し上げます。本日は大崎上島町地域協議会の主催により「海と船のシンポジウム」の開催がこのように多くの皆様にご参集の中で開催されますことを、先ずもって心からお喜び申し上げます。また、大崎上島の地域協議会の皆様をはじめ、各構成団体の皆様におかれましては平素より大崎上島町の振興と福祉の向上に多大なるご尽力をいただき、心から敬意と感謝の意を表す次第でございます。

さて、今日のこのシンポジウムでございますけれども、このあと見延典子先生の基調講演がございます。私は竹原市の頼山陽顕彰会の顧問をおおせつかっており、年に二・三回行事があるわけでございますが、見延先生とは頼山陽祭り等々で何回かお会いいたしまして、お話をさせていただいたり、聞かせていただいたりしております。今日は素晴らしいお話が聞けるとお思いますので、皆様期待をしていただきたいというふうに思います。また、私の勝手な思いではありますが、見延先生にはせつかく大崎上島に来ていただきましたので、この大崎上島について何か物を書いていただけたら非常にありがたいと、私の勝手なよこしまな思いではございますが、よろしく願い申し上げます。

そのあと中学生の皆さんから権伝馬の体験談の発表、それから最後にパネルディスカッションがあるように聞いております。今日は肩書きを見ますと「営業部長」というふうに書いてありますが、このコーディネーターを見延先生の隣に座っておられます、この大崎上島町出身の県庁職員のエースであります谷川氏がつとめていただけると聞いております。またパネラーとして、各界の先生方から貴重なお話を聞けるというので私も非常に楽しみにしているところでございます。

今日のシンポジウムのサブタイトルに「地域文化の再発掘」ということが言われておりますけれども、これは先ほど会長から話がありましたけれども、権伝馬について深く探求をし、それを通じて地域を振興していこうということであろうと思います。ちなみに私も子どものころから地域に権伝馬があり、ずっと関わってこらせていただいております。小学校のころは前の太鼓、台振り、後ろに乗ります剣權。中学校からは漕ぎ手であります水夫を経験させていただきました。社会人になりましたは最後に船長もさせていただきました、本当に権伝馬には一通りの経験をさせていただきました。ですから権伝馬に対する思い入れというものは非常に強く、深いものを持っております。ですから今回のこの事業に対してすごく興味ももたしていただいておりますし、私でできることでありましたらお手

伝いをさせていただけたらありがたいなというふうに思っているところでございます。ご案内のとおりこの近年地方分権がどんどん進んで参りまして、町が自らの独特な特色のある地域づくりが求められてきているというふうに私には思います。こうした事業、ほんとうに時期を得た事業であろうというふうに思っております。この地域協議会の皆様、各構成団体の皆様におかれましては、本日のこのシンポジウムを契機とされまして、今後ともこの地域の伝統文化の継承そしてまた、地域振興によりいっそうのご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びにあたり、本日のこの「海と船のシンポジウム」がほんとうに実りの多い会となりまして、この事業計画がスムーズに進み大成功されますことを心からご祈念を申し上げます。と同時にこの地域協議会の皆様と各構成団体の今後益々のご隆盛と、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして粗辞ではございますが私からの御祝いのことばとさせていただきます。本日はまことにおめでとうでございます。

司会（松原恵美 氏）

ありがとうございました。続きまして大崎上島町長でいらっしゃいます藤原正孝様よりご挨拶をちょうだいしたいと存じます。

来賓（大崎上島町長 藤原正孝 町長）

皆さまこんにちは。このシンポジウムにご参加いただきましてほんとうにありがとうございます。また、昨年立ち上げていただいた地域協議会ではありますけれど、この会を催すこともあわせ、この地域を考えようということの組織立てをしていただいたことに対して心よりお礼を申し上げたいというふうに思います。また皆様には日頃からあらゆる分野において、町の催す行事を含めそれぞれの地域にある伝統とか行事に対してご準備いただいておりますことに対しても、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

先ほどから話がありましたように、私たちの町は島であります。島というのは周囲を海に囲まれ、海を利用するということが生活基盤の中にあります。海を使ってあらゆる方面に展開する。そういうことが島の宿命としてあるわけです。ですからやはりこの島の基幹産業というのは造船と海運ということが延々と今につながっているというふうに思います。何度も島ということをいいますけれども、それぞれの港というものが違った顔を持っております。たとえば大崎上島といっても本土向けであれば現在の竹原とか安芸津とか。呉とか広島とか。もうひとつ南側のほうでいえば四国向きとか瀬戸内海のほかの島々に向けての顔とか。それぞれ顔が違うようにそこで養われてきた文化とか伝統とかもそれぞれ違った特色を持っております。でも残念ですけれども最近の傾向としてはそういう伝統とか行事とか文化というものがいろんな社会生活の仕組みが変わっていく、人間関係がどちらかというと希薄になっていく。地域の連帯感も難しい状態になっていく中でちょっと忘れられていくような傾向があるのではないかとこのように思います。そういうことをもう一度

皆様といっしょになって考えて、なかなかひとつ祭りにしても、それぞれのお世話をされる方のご労苦というものは非常に大きなものがあるし、大変なことをずっと引きずっていくというふうなことがあるわけですが、それぞれの地域の連帯感を醸成するとか、それに関わって一つのことを皆で一生懸命にやっていくということが人間関係というか、地域が元気になるもとだというふうに思います。そういう意味ではこういうシンポジウムを通じて皆さんの気持ちをもっと島の良いところをアピールできるように、またそれを外に向けて発信できるようにそれにあわせて地域の方々の連帯意識を、協同の精神というものが養われるようになればと期待しております。そういう意味で今日のシンポジウムを契機により一層皆様方のご協力というものをお願いいたしまして、簡単ですがご挨拶に代えさせていただきたいとします。本当にありがとうございました。